

二宮金次郎から 歴史を学ぶ



① 映画「二宮金次郎」から 5 バリューを考える

② 映画鑑賞後の感想文 報徳思想と5 バリュー

③ 歴史研究家による講話 日本人の在り方を学ぶ



① 金次郎から考える5 バリュー

薪〔柴〕を背負って書物を読む銅像で知られる二宮金次郎。映画「二宮金次郎」〔五十嵐匠監督〕を題材にして、5 バリューを捉えてみるのは面白いのではないかと。代表の齊藤が発案し、当社に從事するもの全てが映画を鑑賞しました。

異常発達した金融業界の流れの中で、5 バリューを理念に掲げて他とは違ったものを打ち出してゆきたいという決意が当社にはございます。

『**今だけ、金だけ、自分だけ**』といった流行に流され、まるで拝金主義のような振る舞い方をする者が増える世の中で、これを改善してゆくには歴史に培われた良識が必要になります。

『**遠くをはかるものは富み、近くをはかるものは貧す**』今の世の中の動きをしっかりと捉えて先を見通すことの大切さ、目先の瞬間だけしか見えてない者は失敗するという金次郎が遺した言葉です。

『**道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である**』という戒めも現代において通じるころがあります。日本人が失いつつある誇りや、忘れかけている心といった価値の問題をめぐり、歴史を顧みることが現代を生きる上で、バランス感覚を保つエッセンスがたっぷりと含まれています。

② 「報徳思想と5 バリュー」【 映画の感想文を一部抜粋 】

- ☉ 「至誠・勤労・推譲・分度・一元融合」は全て繋がっており、5 バリューと共通していると感じた。
- ☉ 至誠＝まごころを持って顧客・仲間に接しながら理想を迫及していきたい。
- ☉ 5 バリューはメリル・リンチが唱え、海を越えて伝えられた。広がりを持たせ次世代につなげていくこと。
- ☉ 道徳のない経済は犯罪である－
－ゼロサム・ゲームの中で、他から奪い取ることを勝利と考える我が業の今後は如何に。
- ☉ 「誠」こそが「心」を持つ人間を唯一動かす動機なのだ。

日本の歴史や文化に明るい小名木善行先生による勉強会を開催しました。

江戸後期に農政家・思想家として生きた二宮金次郎を題材にして「人物像」「金次郎が築いた日本」「これからの日本」といった論点をめぐり90分ほどの講話を聴講しました。



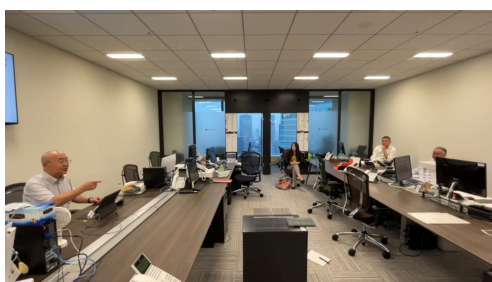
③日本人の在り方を学ぶ

- 水害で一家が離散、菜種油を採り 22 歳で家を取り戻す
- 小田原藩主から桜町の復興を命ぜられる
- 成田山新勝寺における断食で自らの欲を省みる
- 農民のハートを掴み日本の姿に大きな影響を与える
- 全国 600 以上の農村を復興させ豊かな農民へ蘇生
- 真面目にコツコツと働く積小為大の精神による復興
- ひとりでは、成せないことを皆でやる報徳思想
- 備蓄や社会保障にも活用した米による農村経済の知恵
新米は収穫後すぐに蔵へ収め、2 年経てから古古米として流通させる。その歴史は長く昭和 46 年頃まで続いた
- 豊かな農家が増え、余裕のある農民たちは奇兵隊へ
- 俸給も要らず農耕で鍛えた農民兵は忍耐力が強かった
- 戊辰戦争、日清・日露、大東亜戦争を戦い抜いた農民兵
- 島嶼防衛に当たった日本陸軍 27 万人に対し、アメリカは兵力 110 万人を投入、本土に残る 600 万人の総力戦に勝ち目がないと原爆を投下
- 無辜の民の犠牲はならぬと新型爆弾≡原爆の開発を中止
- 敗戦しても領土領海は世界でも大きい海洋国家
- どこまでも、いつまでも戦う精神や誇りを失いつつある
- 「神勅相違なければ日本未だ亡びず」(吉田松陰)
- 「学ぶこと」と「知ること」≡国のことを知ることが権力よりもっと強いこと(古事記)
- 降り積もる 深雪に耐えて 色変えぬ
松ぞ雄々しき 人もかくあれ (昭和天皇の御歌)

危機の時代を生きた
二宮金次郎

心で通じ合う強い
農民として甦生

日本人が失いつつ
ある誇りを取り戻す

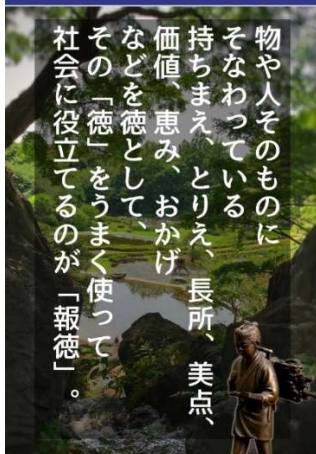


2022年6月23日 大阪本店にて

二宮金次郎に学ぶ



報徳とは



【映画「二宮金次郎」あらすじ 及び 関連エピソード】

かつて多くの小学校の校庭に設置されていた、薪を背負いながら本を読む少年の像で知られる二宮金次郎の半生を描いた伝記ドラマ。両親を亡くし、兄弟とも離れて暮らす幼少期を送った二宮金次郎。青年になった金次郎は小田原藩主・大久保忠真から桜町領（現・栃木県真岡市）の復興を任される。金次郎は自身が思いついた独自のやり方（仕法）で村の復興にあたるが、保守的な村人たちから大きな反発に遭ってしまう。そんな中、小田原藩から侍・豊田正作が新たに派遣となり、「百姓上りの金次郎が秩序を壊している」と、金次郎の施策にさまざまな妨害をし始める。村人からの協力が得られない金次郎は、一旦は村を去り、成田山新勝寺で断食の修行を勤めるものの、そこで自らの言動を見つめ直し、やがて村人に暖かく迎えられるようになる。最終的に金次郎の取り組みは成功をおさめ、貢納 900 俵だった桜町領を貢納 2000 俵の村へと復興させたのでした。

当映画は、関連する各市町村や 100 を超える企業、また数百名におよぶ個人の方々からの支援を受け、制作がなされました。公開は 2019 年ながらも、2022 年の今も、全国の市民会館や公民館等で定期的に上映会が開催されております。その活動は今も続いており、映画「二宮金次郎」の公式ホームページでは、社員研修用の特別セットなども紹介されております。

二宮金次郎が背負う「薪」は経済を、手にしている書物は「四書五経」で道徳を表す、と言われてしています。この「道徳経済一元論」は、明治期以降の多くの経営者に影響を与え、かの渋沢栄一は「二宮先生の 4 つの美德（至誠・勤労・分度・推譲）を励行せん」と述べています。また、松下幸之助や土光敏夫などの昭和期の経済人も、幅広く二宮金次郎の影響を受けたと言われてしています。

小名木善行先生【略歴】

昭和 31 年 1 月生まれ国史啓蒙家 静岡県浜松市出身。私塾「倭塾」を運営。

ブログ「ねずさんの学ぼう日本」を毎日配信。

Youtube の「むすび大学」では、100 万再生の動画ほか多数。

【著書】

日本図書館協会推薦『ねずさんの日本の心で読み解く百人一首』、『ねずさんと語る古事記 1～3 巻』、『ねずさんの奇跡の国 日本がわかる万葉集』、『ねずさんの世界に誇る覚醒と繁栄を解く日本書紀』、『ねずさんの知っておきたい日本のすごい秘密』、『日本建国史』、『庶民の日本史』、『金融経済の裏側』、『子供たちに伝えたい 美しき日本人たち』 その他多数。